

「京都を学ぶセミナー丹波編」第7回（開催報告）

平成30年11月7日
京都学・歴彩館
075-723-4835

平成28年度から開始した「丹波の文化資源」研究プロジェクトの成果を、分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【丹波編】」の第7回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日 時 平成30年11月6日（火）13:30～15:00

■ 会 場 京都府立京都学・歴彩館大ホール

■ 参加者数 100名

■ 内 容

講 演 同志社大学 教授 井上一稔氏

「美山の仏像たち ―その魅力―」

この度、仏像に関してはあまり注目されてこなかった美山に、多くの魅力的な仏像の存在が明らかになりました。平安時代を中心に、少し綾部の仏像も加えてお話しします

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

豊かな自然と茅葺民家の残る美山には、多くの古仏が伝わっている。今回のセミナーでは、平安時代の仏像を中心に多くの画像が提示され、その様式や作風について他地域の仏像とも比較しながら紹介がなされた。美山最古の仏像は、10世紀後半の成願寺弥勒堂の僧形立像とされる。それは、山に住む神が仏教に帰依した僧形の神像であった。同じく成願寺には、11世紀から12世紀において在地での造像活動が見いだされる。その一方で、山水寺・本妙寺・行福寺には京仏師の手による美仏も残されている。美山における平安時代の歴史的な位置や他地域との関係にも話題は及び、美山の仏像の持つ奥深さをうかがうことができた。

参加者からは「美山にこんなすばらしい仏像が残されているのに驚きました」「写真も多く、仏像の詳しい説明もされていたので、満足しています」などの好評の声があった。

